

南海トラフ巨大地震に備え 若い世代が震災 経験者に学ぶ

2022年8月2日(火) NHK



南海トラフ巨大地震に備えて若い世代に防災への意識を高めてもらおうと、南あわじ市で、小学生から高校生が東日本大震災の被災地からオンラインで教訓を学ぶ研修が行われました。

南あわじ市の公民館で開かれた研修に参加したのは、南あわじ市の

小学6年生から高校2年生、あわせておよそ40人です。

生徒や児童は、1日から東日本大震災で被害を受けた宮城県を訪れる予定でしたが、新型コロナウイルスの感染急拡大を受けて急きょオンライン研修となりました。

研修では、津波で大きな被害を受けた石巻市の大川小学校の当時6年生だった娘を亡くした佐藤敏郎さんと、5年生だった只野哲也さんが講師を務めました。

このなかで、講師は震災前の校舎の写真と現在の様子を比べて見せ、自分や大切な人の命を守るためにどう行動すべきか日頃から考え、未来につなげてほしいと伝えていました。

また、南あわじ市の浅井伸行教育長が、命を守るためには、危険な場所からできるだけ遠くて高い場所へ逃げるのが重要だと訴え、参加者はメモを取りながら真剣な表情で聞いていました。

小学6年生の男子児童は「日頃からの備えが大切だと感じた。来年ぜひ現地に行つて、震災直後について話を聞きたいと思った」と話していました。

南あわじ市学校教育課指導主事の長尾通稔さんは、「淡路島は南海トラフ巨大地震で津波が心配されるが、自分や家族の命を守るためにふだんからどうしたらいいのか考えるきっかけにしてほしい」と話していました。